

ラムサール条約登録湿地  
**伊豆沼・内沼の自然  
 淡水魚観察**  
 POCKET GUIDE



登米市

**伊豆沼・内沼の自然環境**

●伊豆沼・内沼の自然環境  
 伊豆沼内沼は、面積559ha、周囲約20kmありますが、水深は深いところでもわずか1.6m、平均0.76mしかありません。そのため、水生植物が豊富で、様々な種類の魚類や昆虫類が見られます。

沼の気候は、真冬でも0℃前後であり、水面が全面凍結することはほとんどありません。広い水面をめぐらさるガンヤカモ、ハクチョウなどの多くの水鳥にとつて、全面凍結しにくい伊豆沼内沼は安全なねぐらとなっています。



沼の全景

●伊豆沼内沼とラムサール条約

伊豆沼内沼は、1985年(昭和60年)9月13日、北海道釧路湿原に次いで、日本で2番目に指定登録湿地となり、その保全に国

美しい自然を守るために

- ①自然に親しもう
- ②環境を学ぼう
- ③貴重な動植物を守ろう
- ④環境美化につとめよう
- ⑤きれいな水辺をつくらう

美しい自然環境をいつまでも!

お問い合わせ  
 登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター  
 宮城県登米市迫町新田字新前沼254  
 TEL&FAX.0220-28-3111  
 登米市役所市民生活部環境課  
 TEL.0220-58-5553  
 FAX.0220-58-3345  
 監修：財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団



- 【交通のご案内】
- JR東北本線新田駅……………徒歩約10分
  - 東北新幹線くりこま高原駅……………車で約25分
  - 東北自動車道築館I.C……………車で約20分
  - 東北自動車道古川I.C……………車で約50分
  - 東北自動車道若柳金成I.C……………車で約25分

**水環境保全の取り組み**

●自然の再生・保全の取り組み

伊豆沼内沼の豊かな自然を再生保全するため、どういった取り組みが必要かを考え、そして実践する場として、平成20年9月に自然再生推進法に基づき「伊豆沼内沼自然再生協議会」が設立されました。

協議会は学識経験者、地元の団体代表者、環境団体関係者、行政機関、一般公募委員などで構成されており、登米市もこの協議会に参加し、環境教育などを実践しています。

●保全の取り組み

〈環境学習の開催〉

伊豆沼内沼の環境を保全するためには、多くの方々に沼の現状と課題について、理解していただく必要があります。このことから、登米市と宮城県伊豆沼内沼環境保全財団では、野鳥観察会やハスを活用した紙すき体験、伊豆沼・内沼の四季写真展などをそれぞれ開催しています。



オオクチバス



伊豆沼のハスを活用した紙すき体験



外来魚の駆除



漁業の様子



エビ餅

●人々の生活と沼の関わり

昭和初期の伊豆沼内沼では、漁業も盛んに行われていて、タニシやエビ、フナ、コイなどたくさん魚が食卓に並べられていました。

フナや小魚は串焼きに、ツブ貝は漬けて天ぷらやみそ汁の具にして食していたそうです。

また、伊豆沼と言えばエビが有名ですが、エビは蒸してエビ餅にしたり、天ぷら、塩ゆでにしています。

沼で捕れる魚は地域の人々にとつて貴重な栄養源であったとともに、漁業者にとつても生活の糧になっていたのです。

〈希少種の保護〉

宮城県伊豆沼内沼環境保全財団では、自然環境を保全するための沼の調査研究を行い、外来種の駆除、希少種の保護、ヨシ刈り、クリーンキャンペーンなどを実施しています。

〈ゼニタナゴの現状〉

伊豆沼内沼には、1990年代半ばまでゼニタナゴが多く生息し、他のタナゴを含め毎年3、4トンが食材として出荷されるほど漁獲されていました。しかし、オオクチバスが増加した1996年以降、沼から姿を消してしまいました。伊豆沼内沼では見られなくなったゼニタナゴですが、沼周辺のため池には生息している場所もあります。ゼニタナゴは一枚貝に産卵しますが、その一枚貝は、幼生の時期にヨシノボリなどの魚に寄生する生態を持っており、3種類の生物を同時に守る必要があります。生き残ったゼニタナゴを守りながら、二枚貝やヨシノボリと合わせて復元していく取り組みが現在行なわれています。

## 伊豆沼・内沼の魚たち

# 古くから沼にいる魚たち（在来種）

沼には、コイ科魚類を中心に約40種類の魚類が生息しています。ここでは、その中の一部を紹介いたします。



**トヨシノボリ**

【格葦登】ハゼ科

沖縄を除く全国の湖とその流入河川に分布します。体長は6cm程度。食性はほぼ肉食性で小型の水生生物やプランクトンなどを食べます。底質が砂や石の場所を好みます。



**ゼニタナゴ**

【銭鰯】コイ科

関東以北の本州に分布します。繁殖期は秋でイシガイ科の二枚貝に卵を産みつけます。近年では生息地が減少し絶滅が危惧されています。食性は雑食性ですが、付着藻類を好んで食べます。



**メダカ**

【目高】メダカ科

北海道を除く日本全域に分布します。流れのゆるい小川や水路に生息し、水田にも遡上します。浅くて暖かい環境を好みます。食性は主に動物プランクトンなどを食べます。



**ヌマチチブ**

【沼知知武】ハゼ科

北海道から九州などに分布します。石など隠れる場所を好みます。空き缶などを利用する場合もあります。食性はほぼ肉食性で、小型の水生生物やプランクトンなどを食べます。



**タナゴ**

【鱒】コイ科

日本固有種で、関東地方以北の太平洋側に生息しています。河川の中・下流域の、流れの緩やかな場所や湖沼などに生息しています。春にイシガイ科の二枚貝に卵を産みつけます。食性は雑食性で、昆虫や藻類などを食べます。



**ドジョウ**

【泥鰌】ドジョウ科

日本各地に分布します。用水路などに生息し、動物プランクトンやイトミミズなどを食べます。産卵時には田んぼに遡上します。ドジョウは古くから食用として利用されてきました。



**カマツカ**

【鱒】コイ科

日本では岩手県以南の本州に分布します。主に河川の中流域や湖沼の底質が砂質の場所に生息します。カマツカは底質の砂ごと口から吸い込み、水生昆虫などをこして食べます。



**モツゴ**

【持子】コイ科

移植などにより、現在では日本全国に分布します。湖沼やため池、水路など広い範囲に生息し、群れて生活します。食性は雑食性で、ミジンコなどに主に動物プランクトンなどを食べます。



**ナマズ**

【鮠】ナマズ科

日本各地に分布します。夜行性で、昼間は流れの緩やかな河川、池沼湖において、岩陰や水草の陰に隠れています。ナマズは水田で産卵します。魚やエビなどを食べます。



**ギンブナ**

【銀鱒】コイ科

日本各地、アジアの温帯域に分布します。雑食性で動物プランクトンなどを食べます。春には池や川の浅い場所で産卵します。



**タモロコ**

【田路子】コイ科

移植により、東北地方や関東地方などに分布しています。主に湖沼や河川、用水路などに生息します。食性は雑食性で、ミジンコなどに主に動物プランクトンなどを食べます。



**ギバチ**

【鰻鯉】ギギ科

関東以北の東北地方に生息します。胸びれと背びれにとげがついています。夜行性で主に水生昆虫などを食べます。



**コイ**

【鱒】コイ科

全国に分布します。河川や湖沼など広い場所に生息しています。フナに似ていますが、口にひげがありません。雑食性で水草や貝など様々なものを食べます。



**ウグイ**

【鱒】コイ科

沖縄地方を除く日本全国に分布します。河川の上流域から下流域や湖沼に広く生息しています。産卵は河川の川底が砂や礫の場所で行います。ウグイは雑食性で、昆虫やコケ、小さな魚など様々なものを食べます。



**ウナギ**

【鰻】ウナギ科

日本全国に分布します。稚魚が海から遡上し、河川や湖沼など淡水域に生息しています。夜行性で、エビや小魚などを食べます。

## 伊豆沼・内沼の魚たち

# 新しく沼に来た魚たち（外来種）



**カムルチー**

【タイワンドジョウ科(別名:ライギョ)】

アジア大陸東部が原産地で日本には移入された魚です。産卵には浮き巣をつくり卵から稚魚まで親が守ります。食性は肉食性で魚や甲殻類などを食べます。



**ブルーギル**

【サンフィッシュ科】

北アメリカ原産の外来種です。移植により日本全国に生息しています。食性は雑食性でなんでも食べます。特定外来生物に指定されています。



**オオクチバス**

【サンフィッシュ科(別名:ブラックバス)】

北アメリカ原産の外来種です。移植により日本全国に生息しています。食性は肉食性で主に魚類や甲殻類などを捕食します。このため放流された場所では在来の生物が減少しています。特定外来生物に指定されています。

※特定外来生物とは…「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」で指定されたもので、飼育や野外へ放つことなどが原則禁止されています。代表的な特定外来生物は、ブラックバス(オオクチバス)、ブルーギル、カマツキガメなどです。